

【福島県の人口減少問題～ピンチをチャンスにとらえてみると～】

生涯学習コーディネーター 伊達マリコ

12月17日、桜の聖母短大 第2学生ホールでSOC(桜大人カレッジの略称)の交流会があり、学びの友5人が集まり授業の感想等を話した。

その中に、話のプロ、元ラジオ福島の荒川守さんもいる。「リスクマネジメントの授業で『お金と思い出、どちらが大切か?』という話が出たんだよ」と。メンバーそれぞれが自論を話す。

最後に、「ところで、マリコさんは、福島の人口減少問題をどう思う?」と、荒川さんに質問された。

私はその問題を以前からずっと考えている。その時、「ん?もしかして、福島への移住を望む人は、お金より思い出を取る人なのかも...」と、ひらめいた。

皆さん、ご機嫌よう!

前回のダテマリエッセイは「南福島スタバのエッセイ講座」のお話。

さて今回は、日本の人口減少を書いてみた。それでは始まり、始まり...

私は若い頃から各地を電車(バス)に乗って一人旅をしてきた。知らない街を歩き、道に迷えば地元の人に道を尋ねるし、ベンチで隣りあうおばさんがいれば、ちょっとした会話のキャッチボールから美味しい食べ物屋さん、雰囲気の良い喫茶店情報を聞くと即行ってみる。

だから結局のところ、人や場所の「ご縁」という、目には見えない繋がりに導かれるものと思うのだ。

人生減少は、どこでもテーマに上がる課題で、各自治体があらゆる助成金(お金)で「若い女性に住んで欲しい」とか「子育てを福島ですて欲しい」と、アピールしている。けれど、そこに当てはまらない人はどうなのだろうか。

12月22日、伊達市議会(12月議会)傍聴席で偶然知り合った古民家のカフェを経営している関まいねさんにご縁があり、会いに行ってきた。

彼女は、埼玉出身。梁川の家には高齢のお母さんが住んでいて、現在は埼玉との二拠点生活。

埼玉ではピアノを教え、そしてまた、民生委員もしていたそう。話題豊富で、一緒にいてとても楽しい。

「3年前に父が亡くなって、それで梁川のこの家に。家のお風呂やトイレ等をリホーム。現在、予約制の薪ストーブのあるオルゴールカフェをやっています」「作曲したり、オルゴールのミュージックカードを作ったり。毎月第4水曜日は手回しオルゴールの集いコンサートをしています」と話してくれた。

「でも近所に、バイオマス発電の工場が建設され、安全面が心配。息子達には、将来この土地に住んで欲しいと考えているのですが…」と笑顔が曇る。

なんでもそうだが、不安に思っていることは、まず言葉に出すのが大切だ。美味しい紅茶を戴きながら、素敵なオルゴールの生演奏も聴かせて頂いた。外は静かに雪が降ってきた。

皆さんも是非一度、オルゴールカフェ『ビーとおん』（梁川栗野郵便局近く。お問合せ 090-8055-7025）に行って、薪ストーブであたたまり、まいねさんとお喋りしてみてください。

以上、梁川愛が深いカフェ店主 関まいねさんのお話でした。